opusdei.org

## 属人区長の手紙 (2017年6月4日)

2017/06/10

## PDF式をダウンロード

愛する皆さん、イエスが私の子ども たちをお守りくださいますように! 過日の総会で思い起こしましたように[i]、ここ数十年来、教会そして属人区の最優先課題は家族です。この手紙では、緊急かつ必要とする使徒職について、再度、簡単に考察したいと思います。

多くの人は、男性と女性が一致する ために神が計画された結婚を、時代 遅れな事として疑問視することをも 含めて、単なる一つのモデルに過た ないと考えています。しかし私たち は希望で満たす必要がありますが はに刻まれたものですから、 中にあっても、 道は、常に開かれて いくのです。

各家族は、一致を促進しようと熱心に努力することで「この世の管理を、神と人間の間の契約に委ねています」[ii]。このことを考えると聖ホセマリアの言葉が脳裏に浮かびます。「キリスト者の仕事、それは豊

富な善で悪を溺れさせることであ る。それは、否定的なキャンペーン をしたり、何々反対を叫んだりする ことではない。そうではなくて、楽 観に溢れ、若さと喜びと平和に満ち て、肯定をモットーに生きることで ある。すべての人を、すなわちキリ ストに付き従う人も、キリストを見 放している人や彼を知らぬ人も、理 解する心で見ることである。とは言 え、理解するとは、不介入や無関心 な態度をとることではなく、行動す ることである」|iii|。多くの家庭が 遭遇している、また家族制度自体に も見られる困難を嘆いて、落ち着き や不屈の精神を失うことなく、強さ と専門性を持って、キリスト者の家 庭を守り促進するよう努めましょ う。これは私たちだけの問題ではな く、神に関わることであり、代々に 関わることでもあります。

家庭も結婚も聖性の道です。「『あなたは結婚への召し出しがある』と

云ったから笑うのか。ところが、あなたにはそれがある。そう、結婚は召し出しなのである」[iv]。聖性への召し出し、それは幸せです。家庭は愛が生まれる場です。私たちが築いたり築かなかったりということ以前に、家庭には神の愛が私たちの人生に最初に現存する場なのです。

「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださっとださっとかです」(1ヨハネ4,19)。父性と母からです」(1ヨハネ4,19)。父性と母が誰であり、愛の実施のといるの題物であるではあるでは神の贈物であるとしてもは、知ることはもの人、知ることでものがあるとしています。

いつにも増して現代は、あらゆるレベルで、たいへんな困難に見舞われている家庭に寄り添うことの緊急性

が感じ取られます。父親、母親、 夫、または妻になる知識は生まれ付 きのものではありません。自己形成 すべきで、他の夫婦や両親を自己形 成するよう助ける必要があるので す。他の家族を助ける家族となる! 家族生活での経験を伝えることで、 「知識のない人に教える」というい つくしみの業の広大な分野で効果的 な働きをすることができます。「教 訓を垂れる」というのではなく、自 然な態度で、良い結婚の準備を手 伝ったり、新婚家庭、あるいは逆境 に陥っている家族に寄り添ったりす る方法はいくらでもあるでしょう。 さらに、皆さんも、時には家族が困 難を抱えこむことがあるでしょう。 そんな時には心を打ち明け、かつて 他者に手を貸した時と同じ単純さ で、助けを受け入れることです。

また、変則的だと言われている状況 の人たちをどのように助けることが できるのかと考える大きな心を持ち なさい。教皇フランシスコは、教理 は不変であることを再確認しました が[v]、しかしまた、これらの兄弟姉 妹に対する細やかな心遣いが急務で あると言っておられます。彼らをより親しみを込めて見つめ、分別を もって受け入れ、神の恩恵で、彼ら がその状況を克服できるよう寄り添 うことが必要です。

サマリアの女性とのイエスの対話に 注目してください(ヨハネ4.1-45参 照)。あの女性は神から離れていたに も関わらず、知らず知らずに祈り始 めました。偶然に出会ったかのよう になさった神に話し始めていたので す。神は、自己の歴史を真理の光の 中に置くところまで、少しずつ彼女 を導きました。サマリアの女性は、 自分の傷に対して孤独ではありませ んでした:愛に満ちたまなざしが あったのです。「慈愛に満ち、あら ゆる苦難に際して私たちを慰めてく ださる神 | (2コリント1,3-4)。主

は、私たちが一惨めさや小ささにも 関わらず一これらの人たち皆に、主 が傍らにおられることとその慰めを 伝達するためにお招きになります。

いずれにしても、「先手を打つ」よ うにすることです。「誰かを愛する ことを学ぶことは、間に合わせ的に なされることではありません(…)。 実際、各人は誕生の時から結婚のた めに準備されているのです | [vi]。 若者たちとの使徒職活動において は、使徒的独身の美しさを示すと同 時に、婚約や結婚に関して多様な側 面を肯定的に取り上げながら、キリ スト者としての家庭を作る召し出し についても話す方が良いでしょう [vii]。それには、家族の証言、独身 者のためのファミリー・オリエン テーション、講演、映画や読書会、 学校での父兄のための活動、小教区 での協力、将来キリスト者夫婦が生 まれるきっかけになるエンターテイ メントの計画などが考えられます。

形成の仕事に直接携わっている人たちは、各家庭の改善が社会に多大な影響を与えることを考えてください。キリスト者の家庭の魅力は伝染するものです。「生活の証しと言葉で、家族はイエスについて人々に語り、信仰を伝え、神への望みを目覚めさせ、福音の美しさを示します」
[viii]。

人知れず働き実りをもたらす聖霊 に、この落ち着きのある広大な家族 の使徒職を委ねましょう。愛情を込 めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

ローマ、2017年6月4日、聖霊降臨の 祭日

[i] 2017年2月14日「司牧書簡」 21,31番参照。 [ii] フランシスコ、2015年9月2日、 一般謁見。

[iii] 聖ホセマリア、『拓』864番。

[iv] 聖ホセマリア、『道』27番。

[v] フランシスコ、使徒的勧告 「Amoris laetitia」(19-III-2016),n. 300参照。

[vi] フランシスコ、「Amoris laetitia」n.208。

[vii] 2017年2月14日「司牧書簡」25番参照。

[viii] フランシスコ、「Amoris laetitia」n.184。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkucho-tegami-2017-4/(2025/11/20)